

分野

Ⅷ インフラ

分野内の整理

2. 各種インフラ復旧について

1. これまでの取組みと成果の概要（現状）

(道路)

低線量地区の県道・町道については災害査定済。県道落合～浪江線の高線量地区は未調査。震災以降いまだに一時帰宅できない世帯がある(早急な対応を県に要望中)

(上水道)

取水場については先行除染済。定期的に水質モニタリングを実施しており未検出。管渠については市街地や役場までは本管の復旧済(消火用水として)。そのた管渠については漏水箇所を確認しながら復旧工事を行っているが、倒壊家屋が工事に支障をきたしている。また、飲用水としての提供は一定程度の使用量が確保されないと安定した水質が確保できないため、帰還人数によっては飲用水としての提供が困難。

(下水道)

管渠の被害調査については、一次調査(マンホールを開け目視による調査)にて被害の概況調査実施済。現在、一次調査により被災している可能性がある箇所を二次調査中(カメラを管渠内に入れ調査)。下水処理場については、地盤沈下により施設と管渠が破断している。震災の年に完成した新たな汚水処理槽は被災ダメージが少ない。

2. 部会での議論の概要（課題）

- ・(道 路)現在の原発の状況を考えると、避難道の整備を優先すべきである。
- ・(道 路)現在でも道路未復旧で帰宅できない地区がある。一時帰宅道を優先すべき。
- ・(上 水)帰還者が少なくても、上水道を飲用水として提供できる方法を模索すべき。
- ・(下 水)施設復旧に時間がかかるのであれば、浄化槽など代替施設で対応することも必要。
- ・(防潮堤)コンクリートの高い壁では圧迫感がある。景観に配慮した、地形を生かした整備をすべき。
- ・(その他)学生などの交通弱者のためにもJR常磐線の復旧が必要。
- ・(その他)高齢者の帰還の意向は高い。居住できなくても1泊でもふるさとに宿泊できる施設が整備できないか。

3. 部会からの提言（課題解決のための提言）

- ① 道路整備については、福島第一の現状を鑑み、避難道路の整備を優先させること。
- ② 今なお道路未復旧のため帰宅できない地区もあることから、町民が安心して帰宅できるための道路整備を優先的に整備すること。
- ③ 上水道については、一定程度の使用が確保できないと、飲用水として提供できないとのことであるが、帰還者が少数でも飲用水として提供できる手法を検討すること。
- ④ JR常磐線の早期復旧を要望すること。また整備完了まで時間を要する場合は代替バスを運行させるなど、帰還者の生活利便性を図るよう要望すること

4. 目的達成のための手法案（課題解決のための具体的なアイデアの提案）

- ①福島第1原発が今なお不安定な状況であることから、一時立ち入り者や作業員の安全確保のため、避難道を最優先にした復旧。
- ②震災後未復旧である県道落合～浪江線について、今なお自宅へ立ち入りできない方もいるため、高線量地区であっても立ち入り道路の復旧を優先的に進めるよう、あらためて県に要望。
- ③上水道について、一定の利用量がなくても飲用水として水質を確保し供給できるような方策を検討。
- ④下水道について、復旧に時間を要する箇所については、合併浄化槽で対応するなど検討。